



瀬戸内市オリジナル版SDGsカードゲーム
活 動 レ ポ ー ト

令和7年3月

瀬戸内市

協力

岡山県立邑久高等学校
公益財団法人岡山県環境保全事業団

瀬戸内市
SDGs出前授業詳細



環境省
環境教育・ESD実践動画100選
(邑久高校の取組)



お問い合わせ先

瀬戸内市 SDGs推進室（企画振興課内）

☎0869-22-1113 ✉kikaku@city.setouchi.lg.jp

あなたの一歩が まちづくりの 大きな一歩

わたしのまち、瀬戸内市

このまちの

海が、山が、田んぼが、夕陽が、

「おはよう」とあいさつを交わす朝が、
当たり前が続きますように

そのために、

瀬戸内市で何が起きているのか

どうすれば誰ひとり取り残されないのか

いまある資源をどう活用するのか

活用の先にどんなことが起こるのか

考えていく責任がある

でも、

みんなで、ワクワク、楽しく進めたい

それが一歩踏み出せるコツだと思う

そして、

そこでの一人ひとりの一歩は

瀬戸内市の未来を創る、大きな一歩になる

わたしのまちの当たり前が続くように

これまでの歩みをお伝えします

目次

01 はじめに

03 事業概要 | カードゲームを通じて高校生と大人が歩き出す

05 開発背景 | 高校生と歩んできた、より良い未来を創る道

07 カード制作 | 瀬戸内市の課題を聞き取り、カードにする

09 出前授業 | 教える側として小中学校へ出前授業に出向く

11 事業への思い

13 有識者からみた瀬戸内市の取組

14 受賞・メディア掲載

参画について

カードゲームを通じて 高校生と大人が歩き出す

瀬戸内市オリジナル版SDGsカードゲームは、SDGs（持続可能な開発目標）を楽しく学びながら、地域課題に向き合う力を育む教育ツールです。岡山県環境保全事業団の協力のもと、瀬戸内市と岡山県立邑久高等学校の生徒が協働で制作しました。



瀬戸内市職員が邑久高生に、瀬戸内市が目指すしあわせな地域づくりについて地域の魅力や課題を通じて説明。



瀬戸内市と岡山県環境保全事業団が協定を結び、邑久高生へSDGsやカード制作について講演・支援。



邑久高生が地域が抱える環境・エネルギー、人口減少、福祉などの課題を瀬戸内市職員から聞き取り、解決策を検討。



金沢工業大学の学生が2018年に開発したカードゲーム「THE SDGsアクションカードゲームX（クロス）」をベースに瀬戸内市オリジナル版を制作。



邑久高生がファシリテーションを学び、市内の小中学校で出前授業を実施。課題解決アイデアは実際に市役所などで検討される。邑久高校は、瀬戸内市唯一の高校。毎年カードを更新しながら、活動を継続。



高校生と歩んできた、 より良い未来を創る道

2021年「瀬戸内市の持続可能な地域社会づくりを目指していこう」というプロジェクトとして、邑久高校普通科1年生の生徒39名による、カードゲーム制作が始まりました。高校生を中心に学校や行政、企業、地域の方々などがつながり、活動を継続しています。



カードゲーム制作の歩み

- 2021.7 ———— | 瀬戸内市職員によるスタートアップ講座
- 2021.8 ———— | 岡山県環境保全事業団によるSDGs講座
- 2021.10 ———— | 瀬戸内市職員 約20名への課題の聞き取り
課題・解決策・新たな問題を検討
- 2021.11 ———— | 疑問点をまとめ、瀬戸内市職員に書面で質問
カードの内容のブラッシュアップ



大切にしたい視点

- ・トレードオフ構造になっているか
- ・小学生にも伝わる内容か

- 2021.12 ———— | トレードオフカードの制作
リソースカードの制作《強みの整理》

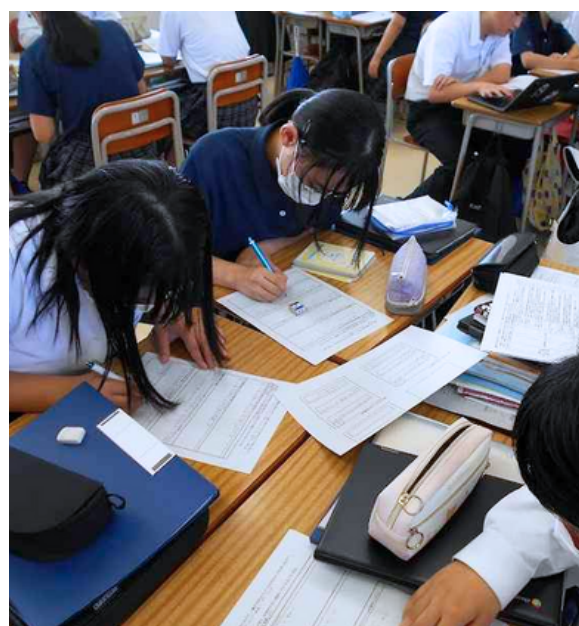
瀬戸内市オリジナル版SDGsカードゲームの完成

- 2022.1-2022.8 ———— | 市内小中学校への出前授業に向けての
ファシリテーション講座
- 2022.9- ———— | 市内小中学校への出前授業実施
瀬戸内市職員への課題の聞き取り
既存カードの見直しと新規カードの制作
- 2023.4- ———— | トレードオフカードの見直しに伴い
邑久高校美術部の生徒がカードのイラストを制作
- 2024.4- ———— | 前年度と同様《活動の継続》

※2022-2023年度に
環境省「地域循環共生圏プラットフォーム事業」の支援をいただきました

瀬戸内市の課題を 聞き取り、カードにする

邑久高生がグループに分かれ、瀬戸内市職員から瀬戸内市が抱える課題を聞き取り、内容を整理してまとめます。専門家から助言をもらいながら、小中学生にも伝わる文章になるよう修正を重ねて、カードを制作します。



interview!

参加者の声 聞き取りに参加した高校生

自分たちの作りたいものは何か？

Q この取組で担った役割と印象的だった出来事は？

A カードゲームの制作や、出前授業を進行するファシリテーターを務めました。瀬戸内市職員の方への聞き取りは緊張しましたが、聞き取りを通して、自分たちはどんなカードを作ろうか考えるきっかけになりました。また、聞き取りやカード制作を通して、すべてのトレードオフカードの内容を知ることができて良かったです。

Q 活動を通じて感じる自分の成長と今後してみたいことは？

A 出前授業でファシリテーターをすることがとても楽しくなりました。人前で話すことへの苦手意識もなくなりました。出前授業にもっと出向いて、いろいろな人に瀬戸内市の課題解決と一緒に考えてもらいたいです。



岡山県立邑久高等学校 1年
鶴海 充貴さん

参加者の声 聞き取りに参加した市職員

SDGsをツールに高校生と対話ができる

Q 聞き取りの参加を通じて感じたことは？

A 普段の業務では声を直接声を聞く機会のない、高校生からの質問を受けることで、高校生たちの視点を知ることができ、課題がクリアになりました。高校生と関わる際は、意見が偏らないように、事実を伝えることを大切にしました。

Q 今後の展望は？

A この取組を一言でいうと「みんなwin-win!」です。SDGsをツールに高校生と地域が対話できるというメリットしかない取組だと思います。今後は、私自身が直接関わる業務だけの視野ではなく、市全体の政策のどのパーツを担っているのか、意識しながら取り組んでいきたいと思っています。



瀬戸内市
環境部生活環境課 主査
坪本 美希

教える側として 小中学校へ出前授業に出向く

高校生が、出前授業に出向いて小中学生に対して授業を行います。ファシリテーションを学び、リハーサルを重ね、全体・グループでのファシリテーターとして、約90分の授業を担当し、みんなで瀬戸内市の課題を解決するアイデアを考えます。考えたアイデアは瀬戸内市に提出します。



楽しかった!

実施後の児童の声

高校生が
助けてくれた



自分たちも
カード作りたい!



もっと考えたい



interview!

参加者の声 出前授業に参加した高校生 Q 参加を通じて感じたことは?

新たな視点で物事を考えるように

A 出前授業で全体を進行するファシリテーターを務めました。小中学校で出前授業を行いました。自分では思いつかない地域課題の解決アイデアがどんどん出てきて驚きました。

出前授業を通して、新たな視点で物事を考えたり、多角的に考えたりするようになったと思います。また、瀬戸内市で育ったのですが、カードゲームを通じて、まだまだ知らないこと（地域課題や資源）も多くあると気づくことができました。今後は、瀬戸内市内だけでなく、他のまちでもこのカードゲームを知ってもらうような出前授業に行ってみたいです。



岡山県立邑久高等学校 1年
藤本 羽来さん

参加者の声 小学校教員 Q 参加を通じて感じたことは?

真剣な高校生の姿が児童を動かす

A 社会科・総合的な学習の時間で学習してきた、ごみ・水・環境等の学習とつながりを持たせ、深めるために実施しました。実施後に、地域の環境を守る解決方法として、自分たちもカードゲームを作成して考えてみたいという声が児童から上がり、地域が抱える問題を知り、自分たちの事として考えていくきっかけになったと感じました。高校生と楽しみながら新しい発想で考えることができ、児童が満足感をもって取り組みました。

瀬戸内市の問題を知り、自分たちの手で問題を解決できるという手応えを感じる経験と、高校生と関わる機会を積極的ににつくっていきたいです。



瀬戸内市立国府小学校・4年生担任
池嶋 加奈英さん

参加者の声 高校教員 Q 参加を通じて感じたことは?

小中学生徒の交流を通じて高校生が成長

A 高校生が地域課題とSDGsについての理解と関心を深め、探究心と協働性を養うことを目的としています。高校生の考えや行動をできるだけ尊重し、彼ら自身が成果や成長を実感することができるように関わっています。実際に、市の職員の方々から課題や取組を伺うことで地域への理解が深まり、カード制作や小中学生との交流を通じて主体性や協働性、コミュニケーション能力を高めることができたと感じています。

この取組を一言でいうと「笑顔」です。高校生の出前授業で小学生が新しい発想のアイデアを出したときのみんなの笑顔がこの取組の何よりの成果だと感じています。

高校生の上級生から下級生への引き継ぎをシステムの中に組み込むことで、SDGsの理解やカードゲームのファシリテーション、カード制作が、高校の中で持続的に行われるようにしていきたいと思っています。



岡山県立邑久高等学校
進路指導課長・指導教諭
矢野 祥子さん

事業への思い

事業を進める企画者が思うことは？



interview!

企画者の声 事業を担当する市役所職員

共創で始まり、ひろがっていく

Q この取組に対するねらい・取り組んでみての成果（変化）は？

A 若い世代が地域の問題に気付き、愛着を持つことで、瀬戸内市のまちづくりの指針である「瀬戸内市総合計画」実行性を高める狙いがあります。SDGsは特別なことではなく、自分たちが暮らす地域を持続可能にするための目標で、自治体が目指すまちづくりそのもの。誰もがSDGsを自分ごとに捉え、地域でSDGsを推進してほしい、そんな思いから取組を進めてきました。高校生との取組を通じて、こどもたちのまちづくりの参画意識を高め、地域社会の担い手としての人材育成につながっていると考えています。

Q 今後の展望は？

A こどもたちも「まちづくり」の大切な一員であり担い手。こどもたちが思い描くまちの将来像に近づくよう、取組を継続し、持続可能でしあわせな地域づくりにつなげていきたいと思っています。



瀬戸内市
総合政策部企画振興課 課長補佐
(SDGs推進室)
仁科 佳菜子

企画者の声 協働するパートナー団体職員

多様な主体が協力し、変化を創る

Q この取組に対するねらい・取り組んでみての成果（変化）は？

A こどもたちは、大人になってから地域課題の解決に関わっていくと何となく思われていると思いますが、こどもだって地域課題の解決にアイデアを出してもいいし、そのアイデアが行政施策の参考にされてもいいと思っています。その中で、地域への愛着を育てながら主体者として成長していく仕組みがあれば、この取組に関わっています。高校生が自分で学び、考え、小中学生に伝える中で、本人が成長を実感して目の色が変わる、その中で地域からの依頼も増える、関わりも増えるという変化を嬉しく感じています。

Q 今後の展望は？

A 市と高校と小中学校だけでなく、地域の事業者や市民団体などが関わり、手ごたえと楽しさが広がっていけたらと考えています。



岡山県環境保全事業団
環境学習プラサスエコ 所長
(2025年度新所属)
柏原 拓史さん

有識者から見た瀬戸内市の取組

高校生が積んだ経験は、 未来につながる レガシー

邑久高校の生徒のみなさんが、瀬戸内市役所の職員に聞き取り調査をして、その結果をもとにカードの内容を検討した丁寧なカードゲームの作成プロセスが印象に残っています。そのプロセスの中で、SDGsのことを覚えて終わるのではなく、実際に地域とSDGsがどのようにつながっているかを考え、カードゲームという成果物を作り上げたことは、瀬戸内市特有の魅力的な活動だと思います。また、特定の政策を推進することで発生してしまう負の影響（トレードオフ）を見える化して考える「瀬戸内市オリジナル版SDGsカードゲーム」は、異なる分野がお互いに影響し合っているというSDGsの特徴を理解し、政策形成に活かしており、他の自治体等ではあまり見られない大変重要な取組だと思います。

この取組を一言で表すのは難しいですが、瀬戸内市で発生している課題について、高校生が主体的に考え、さらに若い小中学生にも伝わる表現で作成したカードゲームは、多世代で瀬戸内市の未来を考えることができるツールです。カードゲーム自体はもちろん、高校生が積んだ経験は、未来につながる「レガシー」だと感じます。

年齢や性別に関係なく、みんなで一緒に瀬戸内市の未来を考えることができるカードゲームを多くの人が遊んで、地域のことを改めて考えるきっかけにして頂ければ嬉しいです。

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任助教

高木 超 様

NPO等を経て、2012年から神奈川県大和市役所の職員として住民協働等を担当。その間、明治大学公共政策大学院を修了。17年9月に退職し、クレアモント評価センター・ニューヨークの研究生として「自治体におけるSDGsのローカライズ」に関する研究を行うほか、国連訓練調査研究所（UNITAR）とクレアモント大学院大学が共催する「SDGsと評価に関するリーダーシップ研修」を修了。19年4月から現職。総務省地域力創造アドバイザー、内閣府地域活性化伝道師などを兼務。



受賞・メディア掲載

- | | |
|---------|--|
| 2021.8 | 山陽新聞 掲載 |
| 2021.12 | 山陽新聞 掲載 |
| 2022.3 | 毎日新聞 掲載 |
| 2022.7 | 月刊ガバナンス7月 掲載 |
| 2022.9 | 山陽新聞 掲載 |
| 2023.12 | 山陽新聞 掲載
邑久高校制作の動画が環境省「環境教育・ESDの実践動画100選」に認定 |
| 2024.12 | 地域情報誌「オセラ」《おかやまSDGs ACTION》掲載
山陽新聞 掲載
おかやま円卓会議が主催する「おかやまSDGsアワード2024」にて
邑久高校が「特に優良な取組」を受賞 |
| 2025.1 | 読売新聞 掲載 |



本事業へ参画してみませんか

本事業は、市職員だけでなく関心を持っていただいた方々とともに進めています。
出前授業に関心がある方、事業に興味がある方など、
気になることがございましたら、お気軽にお問い合わせください。

出前授業・出前講座に来てほしい

SDGsに関するワークショップをしてほしい

事業やコーディネートに興味がある

お問い合わせ先

瀬戸内市 SDGs推進室（企画振興課内）

☎0869-22-1113 ✉kikaku@city.setouchi.lg.jp